

## ベトナムの裾野産業の発展

### ベトナムの裾野産業の概要

裾野産業は、国の経済発展において重要な役割を果たし、工業化及び近代化の原動力となるだけでなく、ベトナムの経済構造全体の変革にも寄与しています。裾野産業は、最終製品の生産工程に必要な原料、資材、部品を生産する産業として定義（Decree No111/2015/ND-CP<sup>1</sup>）されており、現在、主な分野は、「金属、プラスチック、電気・電子部品を含む部品の製造」、「繊維、履物、皮革の製造」、「ハイテク産業」の3つとなりますが、本稿では、日本との関係が深い「部品の製造（機械加工）」にフォーカスしていきます。

統計総局（GSO）によると、機械加工、機械の輸出、卸売等を含む機械産業全体では約3万社が登録されており、総売上高は1700兆ドン超（日本円約10兆5188億円）、120万人以上の労働者が雇用されています<sup>2</sup>。

ベトナム標準産業分類（VSIC）<sup>3</sup>に基づく統計では、そのうち、切削、成形、鋳造、鍛造、スタンピング、溶接、機械処理による部品の製造等を行う機械加工企業<sup>4</sup>は約1.2万社、総売上高は197兆9,470億ドン（日本円約1兆2,248億円）、2017年～2021年の年平均成長率（CAGR）は15%となっています。工法別でみると特にマシニング、鋳造、鍛造、プレスを行う企業の数が増加しています。

---

<sup>1</sup>裾野産業の発展に関する政令 No111/2015/ND-CP <アクセス<[Access](#)>

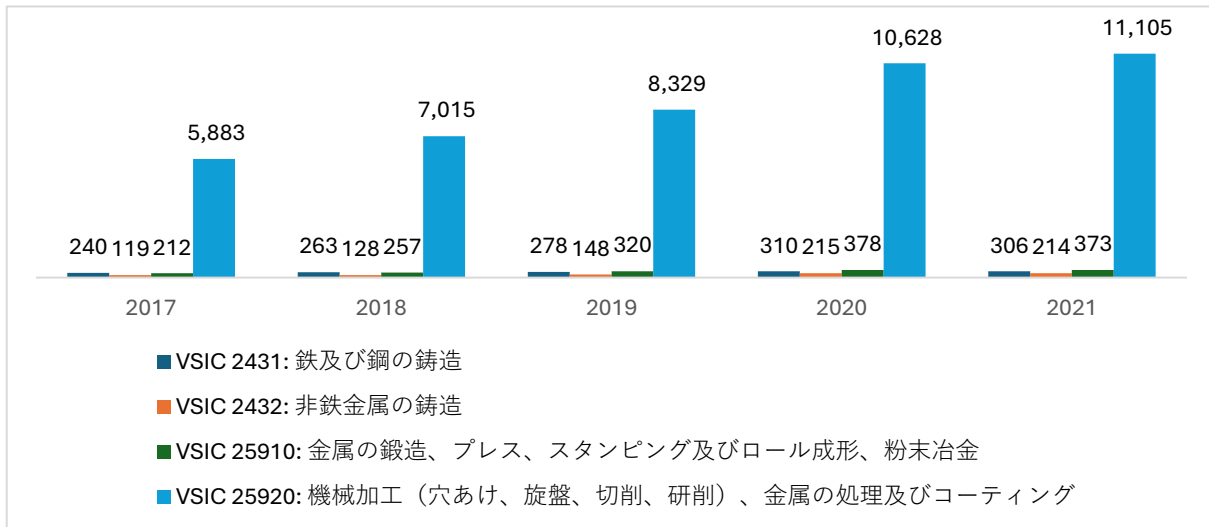
<sup>2</sup>ベトナム商工省（2022年）2022年ベトナム製造市場の概要<[Access](#)>

<sup>3</sup>ベトナム標準産業分類（VSIC）<[Access](#)>

<sup>4</sup>VSIC 24310 鉄及び鋼の鋳造、VSIC 24320 非鉄金属の鋳造、VSIC 25910 金属の鍛造、プレス、スタンピング及びロール成形、粉末冶金、VSIC 25920 機械加工（穴あけ、旋盤、切削、研削）、金属の処理及びコーティング

## 工法別企業数（2017年～2021年）

(単位：社)



出所：B&Company データベース

サプライチェーンに関するベトナム商工省（MoIT）の報告では、現在ベトナムでは自動車・製造業向けに部品を供給する企業が約 5,000 社あり、そのうち国内をターゲットとする企業は 70%、国内だけでなく海外もターゲットとしている企業が約 30%となっています（主に日本、韓国、中国、米国など）。

つまり、ベトナム裾野産業の企業の約 30%は、グローバル・サプライチェーン<sup>5</sup>の一端を担っています。

<sup>5</sup>商工省（2023年）のニュース：<[Access](#)>

## 裾野産業の発展と課題

ベトナムの裾野産業は、地理的位置、政府の支援、外国企業からの投資の相乗効果による、大きな成長機会があると考えられています。

まず、ベトナムは東南アジアの中でも立地に恵まれており、日本、韓国、中国といった主要国へのアクセスが優れています。この地理的優位性が物流ネットワークの効率化と輸送コストの削減を実現し、Apple、Canon、LG、Samsung、Google、Panasonicといった世界的大手企業も惹きつけています。またそれらの企業とともに、Foxconn、Jabil、Pegatron、WistronといったTier1サプライヤーの進出も進んでおり、ベトナムの産業基盤の強化につながっています。

次に、ベトナム政府は、税制優遇措置、金融支援、専門的な研修プログラムの実施など、さまざまな取り組みを通じて裾野産業の成長を後押ししています。また、複数の自由貿易協定（FTA）締結によって輸出活動を促進し、国際市場との結び付きを強化しています。

外国企業の誘致に成功している一方で、裾野産業は多くの課題を抱えています。地場企業の88%は中小企業であり、資金と人材の不足に直面しています。

また、業界をリードするような大手企業が少なく、研究開発（R&D）や新製品のイノベーションへの投資が不足しています。これらの課題はベトナムがグローバルバリュー・チェーンの一部を担う上で大きな障壁となっています<sup>6</sup>。

また、外国企業は自国で実績のある既存サプライヤーに頼りがちであることも地場企業の参入を難しくしています。そのため、地場企業は不利な立場に置かれ、海外の大手企業との提携や有利な条件の確保が難しくなっています<sup>7</sup>。

---

<sup>6</sup>HCMC Center for supporting industries development – CSID (2023 年)<[Access](#)>

<sup>7</sup>VNEconomy (2024 年) のニュース : <[Access](#)>

## 裾野産業における日本企業の事業機会

日本はベトナムの最も重要なパートナーであり、ベトナムへの多額の投資と緊密な連携を通じて工業、裾野産業の発展においても重要な役割を果たしています。ベトナムに投資している 143 の国・地域の中で、日本は第 3 の投資国であり、約 5,300 件、総額 740 億ドルのプロジェクトを実施、うち 70% が工業分野です<sup>8</sup>。

ベトナムの裾野産業は、日本企業や投資家から大きな注目を集めています。JETRO ハノイ事務所の中島所長は、「多くの日本企業にとって、ベトナムはサプライチェーンの一部として欠かせない国になっているが、ベトナムの役割を拡大するためには、裾野産業の発展に注力する必要がある。特に原材料と部品の国内供給を安定させ、企業がサプライチェーンの構築と、コスト削減を進めやすい環境を作ることが、製造・加工分野の発展につながる」と述べています<sup>9</sup>。

一方で、JETRO の調査によると、在ベトナム日本企業の現地化率は 2013 年の 28% から、2022 年には 37% に上昇<sup>10</sup> しています。一部の企業は高い現地調達率を達成しているものの、サプライヤーの質に関する課題を抱えている企業が多く存在し、競争力のある価格、信頼性、高品質なサプライヤーの確保は、さらなる進展に向けた課題となっています。

このような状況を受けて、裾野産業を担う多くの地場企業が、日本企業が求める品質達成を目指して設備や技術への投資を行う意向を示しています。これは業界の成長と成功を推進する上での日本企業との協力の重要性を多くの地場企業が理解していることを示しています。

---

<sup>8</sup>VNBusiness (2024 年)のニュース：<[Access](#)>

<sup>9</sup>CafeF (2023 年)：日本企業誘致のための裾野産業発展に関するニュース<[Access](#)>

<sup>10</sup>CafeF (2023 年)：日本企業誘致のための裾野産業発展に関するニュース<[Access](#)>

ベトナム政府も裾野産業の発展のため、税制優遇、金融支援、無担保ローンなどの取り組みを行い、生産拡大やグローバル・サプライチェーンへの参画を支援しています。そのほか、Decree No111/2015/ND-CP の改正により、裾野産業の定義が広がり、鍛造やメッキ加工などの重要な工程を担う企業向けの支援が強化されています。また、自由貿易協定を活用し、原材料の現地調達率を高め、輸入への依存を減らすことも目指しています。現在、商工省は、加工・製造・裾野産業の発展に向けた法的枠組みの構築のため、「主要産業法<sup>11)</sup>」の起案を進めています。

政府による優遇策や現地化推進も相まって、日本とベトナムの関係強化は、ベトナムの裾野産業の発展だけでなく、サプライチェーンの強化と持続可能なパートナーシップの構築を目指す日本企業にも多くの恩恵をもたらすものとなります。

---

<sup>11)</sup>ベトナム政府ポータル（2024年）：主要産業法の整備に関するニュース<[Access](#)>